

令和2年8月の解説（週間天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、日本の南海上を中心に太平洋高気圧の勢力が強まり、東・西日本太平洋側は晴れの日が多く、厳しい暑さとなった日があり、降水量はかなり少なくなりました。一方、日本海から北日本付近を低気圧や前線が通りやすかったため、北・西日本日本海側ではこの時期としては晴れの日が少なくなりました。また、7日は台風第4号から変わった温帯低気圧の影響で、北・東・西日本日本海側では大雨となった所がありました。沖縄・奄美では、2日から3日にかけては台風第4号の影響で大荒れとなった所がありました。期間の中頃は高気圧に覆われておおむね晴れましたが、9日から10日は台風第5号の影響で、曇りや雨となりました。

中旬は、勢力の強い太平洋高気圧に覆われ、東日本と西日本を中心に晴れて厳しい暑さの日が多くなりました。東日本太平洋側では日最高気温が40℃を上回った地点があり、17日には、浜松(静岡県)で日最高気温の高い方から歴代全国1位タイの41.1℃を観測しました。東日本の平均気温は平年差+2.9℃で、1961年の統計開始以来8月中旬として最も高くなりました。また、東日本太平洋側と西日本太平洋側の日照時間はともに平年比164%で、1961年の統計開始以来8月中旬として最も多くなりました。雨の日が少なかったため東・西日本太平洋側では降水量がかなり少なくなりましたが、10日から11日にかけては、台風第5号や湿った空気の影響で、西日本ではまとまった雨となった所がありました。北日本では、低気圧や前線の影響で、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多く、平均気温はかなり高くなりました。

下旬は、日本の東海上を中心に太平洋高気圧の勢力が強く、北日本、東日本、西日本は晴れて厳しい暑さの日が多くなり、西日本の平均気温は1961年の統計開始以来、2010年と並んで最も高くなりました。高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間は北日本日本海側と東日本でかなり多く、北日本太平洋側と西日本でも多くなりました。降水量は東・西日本日本海側で少なくなりました。沖縄・奄美では、湿った空気の影響も受けやすく、22日から24日にかけては台風第8号の影響で大雨となった所があったため、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なくなりました。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値^(注)よりも9ポイント高い75%でした。地方別の適中率では、沖縄地方を除く各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.4℃小さい1.9℃で、沖縄地方を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.2℃小さい1.4℃で、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に短くなり、気温も急激に下がっていきます。10月は晴れる日が多く、行楽の機会も増えますが、気温の変化が大きい時期でもありますので、週間天気予報を利用する際には天気だけでなく、気温にも注意して下さい。